

「吉田町人口ビジョン」と「吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体像

吉田町人口ビジョン

吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015～2019年度の5か年)

中長期展望(2060年を視野)

<目指すべき将来の方向>

- 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する
- 若い世代の子どもを持ちたいとするそれぞれの希望をかなえる
- 本町で働き、住みたいとする希望をかなえる

<人口の将来展望>

◆本町人口の長期見通し

- 社会保障人口問題研究所推計 人口 2060年 25,599人
- 本町独自推計 人口 2060年 21,214人

- 現在の日本の人口置換水準は 2.07
- 「結婚・妊娠・出産・子育てに関する町民意識調査」によれば、理想の子ども数は2.43人

- 2020年までに合計特殊出生率 2.07(人口置換水準)を目指す
- 2050年までに10代から30代までの転出超過傾向にある階層の流出抑制・流入促進による移動の均衡化を目指す

2060年 2万9千人程度の人口を確保

目指す将来の方向

5つの基本目標

基本目標・数値目標(抜粋)	分野(抜粋)	具体的な施策(抜粋)	重要業績評価指標(KPI)(抜粋)
<基本目標1> 「津波防災まちづくり」による安全・安心な町土を形成する ○多目的広場の整備率 100% ○川尻海岸(1.6km)におけるL2津波対策用防潮堤の整備率 100% ○地域防災指導員の増員 60人	○災害防止対策の充実 ○地域防災力の強化	○防災機能を備えた多目的広場の整備 ○防波堤及び主要陸揚岸壁の耐震・耐津波強化 ○防波堤の整備のための盛土材の確保 ○地域防災指導員養成講座の開催により指導員を増やす	○施設整備率 100% ○施設整備率 100% ○防潮堤完成までの間、盛土材の確保率 100% (町:50%、国・県:50%) ○地域防災指導員が2人以上いる自主防災会の割合 100%
<基本目標2> 本町における安定した雇用を創出する ○企業立地件数 5件 ○雇用創出数 500人	○内陸のフロンティアを拓く取組の推進 ○創業支援体制の構築	○内陸のフロンティアを拓く取組に係る企業活動維持支援事業地内への企業誘致 ○内陸のフロンティアを拓く取組に係る物資供給拠点確保事業地内への商業施設の誘致 ○創業支援事業の推進	○企業誘致件数 2件 ○商業施設誘致件数 3件 ○創業支援対象者数 30件/年 ○創業者数 12件/年
<基本目標3> 本町への新しいひとの流れをつくる ○観光交流客数 50万人/年	○防災発信拠点の整備 ○賑わい創出のための体制づくり ○新たな観光スポットの創出	○町の取組や防災グッズの紹介、防災食の試食等による体験型防災発信拠点の整備 ○情報発信拠点の整備及び賑わいを企画運営する団体の設立 ○海辺を活用した観光スポット(海浜回廊及び多目的広場)の創出	○防災発信拠点の整備箇所 1か所 ○企画運営団体設立件数 1件 ○シーガーデンへの来場者数 10万人/年
<基本目標4> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ○母子健康手帳交付数 300件 ○合計特殊出生率 2.07	○結婚気運の醸成 ○妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援 ○ワーク・ライフ・バランスの啓発 ○産みやすい環境の整備	○観光資源をいかした出会いの場の提供 ○妊娠から出産までの支援の充実を図るとともに、支援が必要な妊婦を確実に把握し、正常な妊娠経過をたどることができるよう必要な継続支援を行う ○ワーク・ライフ・バランスの普及促進 ○出産に伴う経済支援を行う	○出会いの場参加者数 100人/年 ○支援ニーズが高い妊産婦全員への支援の実施割合 100% ○静岡県「男女共同参画社会づくり」宣言事業所・団体数 20件 ○出産時に経済的負担の軽減ができた妊産婦の割合 100%/年
<基本目標5> 時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する ○自立高齢者割合 86.6% ○耕作放棄地の解消(農地への再生) 5ha	○高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進 ○農地の再生利用	○新しい吉田寿大学(2年制)の開校 ○生涯現役人材バンク事業の推進 ○耕作放棄地再生利用に対する町独自の制度を構築する	○寿大学(2年制)を卒業した方が地域団体等で活動している人数 20人 ○いきいきボランティア倶楽部に登録し活動している高齢者の人数 50人 ○農地利用状況調査等による農地相談の割合 5件(25a)/年